

RoHS対応や合理化 山形子会社の工場増築

東亜ディーケーケー

東亜ディーケーケーは、このほど、生産関連子会社の山形ディーケーケー（山形県新庄市）の工場を現在の一・五倍の延べ床面積二五〇〇坪に増築

することに決めた。現状では適用除外とされているRoHS指令への対応を先取りし、プリント基板の鉛フリー化を進めるため、最新鋭の印刷機やリフロー炉を新設。グループ内向けの基板すべてを同工場で生産する。投資額は約三億五〇〇〇万円、外注加工の取り込みや生産プロセスの見直しなど、増築に伴う合理化計画によって全体で三〇%のコスト削減を目指す。

同工場には、マシンングセンター（多面加工機）も合わせて増設。これまで外注していた加工工程の取り込みを図るとともに、同工場の近隣にあった工作加工部門を統合。生産と物流の合理化を行い、部品加工から製品出荷までの生産プロセスを一貫して管理する方式を導入する計画。

更に、現在、東京エンジニアリングセンター（東京都東大和市）で生産している環境用大気分析計と水質分析計の生産を同工場に移管。品質、納期、コスト管理の一元化を図っていく。

調査会社やコンサルタントなどに比べ低価格だ」と強調している。なお、現行の「アドバイザリーサービス」を契約する企業は、新サービスの活用も可能。同サービス利用料は月間一〇万円（年契約制）。

専門家助言新サービス

環境ビジネス
E-ビジネス
新規参入など支援

環境ビジネスエージェンシー（東京都半田区、03-32696-8005）は、環境ビジネスへの参入や新商品・サービス開発の際に、専門家がインターネットなどを

通じて助言を受けることができる新サービス「エキスパート」を開始した。初期設定料五万円、月間利用料一・二万円。今年度は五〇件の受注をを目指す。

新サービスは、技術者ネットワークに登録された専門家から、テーマに応じて適任者を紹介。ウェブ上の電子会議室を通じて、匿名で質問・相談や助言などを受けることができる仕組み。ネットワークには、技術士など一萬一〇〇〇人が登録されており、環境分野のほ

ぼすべてをカバーできるという。

鈴木敦子社長は、「生々しい本音の部分まで含め、具体的な内容のアドバイスを専門家から直接、手際で迅速に受けられるのができる。それ

慮を

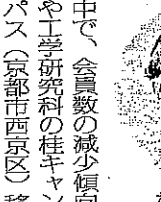
あいまいな表現を避ける必要がある。環境影響は、単純に割り切れるものではなく、プラスとマイナスの効果が混在する「トレードオフ」の関係にあるためだ。例えばある化

のテレビCMのように、原料生産国における生物多様性や人権の問題に対して無関心過ぎる。今後

はサプライチェーンマネジメント（SCM）がより重視されるので、一次購入先だけでなく、サプライチェーンの末端まで含めた配慮が必要だ。

一方、中小企業は「ミ

いて、調査会社やコンサルタントなどに比べ低価格だ」と強調している。なお、現行の「アドバイザリーサービス」を契約する企業は、新サービスの活用も可能。同サービス利用料は月間一〇万円（年契約制）。



松岡会長

次期会長に松岡教授
京大環境衛生
工学研究会
京都大学環境衛生工学研究会は十八日、京都市左京区の京大本部百周年時計台記念館で第二八回シンポジウムと合わせ定時総会を開催し、二〇〇六年度事業計画などを審議・承認した。一年交替制の次期会長には同大学院工学研究科の松岡謙教授が選出された。

中では、会員数の減少傾向や工学研究科の桂キャンパス（京都市西京区）移転など同研究会を取り巻く環境変化に対し、「環境の専門家集団としてのアイデンティティを示し魅力ある組織に発展させるため、今後どのような工夫と改善が必要か共に考えていきたい」と抱負を述べた。

「森に学ぼう」プロジェクト開始
ココ・コーラ
ココ・コーラシステムは十八日から、水資源保護活動を目的とした「森に学ぼう」プロジェクトを開始した。次世代を担う子供達を対象に、森林

品のご案内(4)

社団法人日本有機資源協会は、バイオマスマークを定めて、昨年以來認定事業を行っている。マークと認定商品の普及を目指して、随時紹介する企画の第三回目。

唯一の植物由来エンプラ

アルケマ
リルサンBポリアミド11

アルケマが過去50年近くにわたって製造・販売しているポリアミド11（PA11）、製品名リルサン（登録商標）Bは、ヒマの種子中に含まれるヒマシ油を原料とする11-アミノウンデカン酸の縮重合によって得られる融点185度の脂肪族ポリアミドであり、現在「唯一の植物由来エンプラ」となる。ポリ乳酸の様な生分解性はないが、PLAやPPの物性と比較しても優れた加工性、耐薬品性、耐熱性、マイナスイオン40度まで耐衝撃性、バリア性、耐屈曲疲労性、耐摩耗性を有している。そのため、これまで主として燃料チューブやトラックのエアブレーキチューブ等の自動車用途に使用されてきた。リルサンBポリアミド11を用いることにより、これまでポリ乳酸では展開が困難であった用途に植物由来の材料を使用することが可能になる。

通常設備で製造でき 静電気が少ない新素材

アグリフューチャー・じょうつわ
アグリウッド

アグリウッドは、上越市（新潟県）のベンチャー企業「アグリフューチャー・じょうつわ」が、独自に開発したバイオマス（植物由来資源）と熱可塑性樹脂を、特許出願済の特殊相溶化技術で複合化した、各種成形性に優れた環境に優しいバイオマスプラスチック。特徴は、燃やしても有害ガスの発生が無く、焼却灰も殆ど発生しない。通常の加工設備で製造することができ、リサイクルも可能。生分解性機能を付与することもでき、静電気の発生が一般プラスチック製品に比べ著しく少なく塗装性に優れることである。

間伐材・製材端材からつくられるアグリウッドは木の剛性と温もりを持ち、耐熱性・寸法安定性・塗装性に優れており、現在、山中漆器（塗り盆）、学校給食用トレーなどに利用されている。非食用米（政府備蓄米）